

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

高校2年生の時に女子校に関心を持ち、オープンキャンパスに行ったことで、女性が積極的に参加する社会づくりやジェンダー論に興味を持ち、きっかけになった。同志社女子大学でも、と学びたいと思ったから。

- (2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

[1学期]

英語が苦手だったので、高校1年生からの内容を総復習した。英単語が一番大事だと思ったので、単語帳を日に50個ずつ覚えた。古典は文法が苦手だったので、文法だけの問題集で学習し、活用表を完璧に覚えた。現代社会が学校では1タッチだったので、塾の映像授業を受け、大まかな内容を暗記した。

[夏休み]

英単語が一周したところで、日100個に変え、何周もした。それに加え、英語のイディオムも日50個ずつ覚え始めた。古典の単語・文法が自信をもてるレベルまで達したので、本番に慣れる様に、長めの古文を日に1題解いた。英語がまだ苦手だったので長文を解くまでに、英文法・語法をしっかりとやり、短文の英文読解を始めた。

[2学期～入試直前]

公募推薦入試に向け、一旦現代社会の勉強をやめ、英語と古典の勉強に集中した。

公募推薦の過去問題を1日に1題ずつ解いた。英語の大問2の問題が最初の頃は苦手だったけれど、英単語帳を何周もするにつれ、段々点が取れるようになっていった。

一般入試に向けは、同志社女子大学の入試対策講座で教えていただいた勉強法が役に立った。英語の大問3の問題量が多く、点を取るべきところだと思ったので、Next Stageを何周もし、文法問題対策をした。英単語力があるかないかで長文を解く時に大分差が出ることを実感したので、もっと早くから英単語を覚え始めるべきだと思った。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

どうしてもやる気が出ない時は思い切って休むことにした。思いつく分休むと、焦りからやる気が出るし、集中力もあがり、交感率の良い勉強ができた。テレビは録画した番組を見ることにし、用事が済んだらすぐテレビがいない部屋に行くことにした。勉強の中でもやっていると楽しい勉強や得意な教科があると思うので、朝一で眠くてもやる気のない時などは、それから始めるようにしていた。入試直前期はその日やるべきことをホワイトボードに書き出すと、スランプになった日も、書いておくことだけはやっておこうという気になった。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験の一年間は身体的にも精神的にも辛いと思いますが、自分なりの息抜きの方法を持って、辛い時は休むことも必要だと思います。がんばってください。